



ARAUCO®

2024年8月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジャータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

今年のチリは10年ぶりの寒い冬を迎えており、サンチアゴ市内でも最低気温がマイナスの日が出ております。南部は引き続き南極低気圧による大雨の日もありますが、サンチアゴ市内は少雨となっており、今年も世界的な異常気象が続いております。

銅価格は年初からは3.9-4.0ドルで推移しておりましたが、4月から世界的に銅の需要が増えており、5月には5.0ドルを超えて過去最高値になりました。6月から下げ基調で4.3ドルまで下落後、7月から4.4-4.5ドル台で落ち着いております。

為替は世界的な自国通貨安ドル高傾向が続いており、チリペソもドルに対して弱い相場が続いております。昨年前半は800ドルまでペソが買われましたが、後半は1000ペソ近くまでいき、先月から900ペソ前半のペソ高ドル安水準になっています。

2. 世界市況

ベルシャ湾の船舶迂回措置により、太平洋航路のコンテナ配船が減少しており、運賃の高騰、韓国、中国、シンガポールでの滞船等、チリからのコンテナ配船に影響が開始しております。引き続き、ホワイトウッド下級材が中近東や韓国で入荷減、コスト高が続いておりますが、8月以降は市場がやや落ち着いてくる予測です。今後は世界景気の衰退で原油価格が下がる可能性もあり、また中国経済の停滞で韓国から中国への輸出が落ちる可能性もあります。今年後半の日本向け生産体制にプラスになるかもしれません。チリ国内の丸太不足、中小製材工場の経営難は今後も続きそうです。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2024年5月配船(2番船)の7月4日から川崎、名古屋、大阪へ寄港して終えております。7月配船(3番船)は7月中旬に現地を出港しており、8月22日頃から川崎へ寄港する予定です。9月配船(4番船)は当初9月前半現地入港船でしたが、9月前半

の中近東向けバルク配船の生産を優先する為、また2番船と3番船の間隔が60日間隔より少し早く、9月後半船にして通常の60日間隔を75日間隔に遅らせます。

しかし、11月年内入港予定の最終船に変更はありません。

4番船はアラウコとCMP Cの配船スケジュール、積載数量が船会社の希望と合わない状況で、アラウコが単独配船を検討した時期もありましたが、最終的に同じバルク船で運行することになりました。今後も大手2社でバルク船を満船にする状況は厳しく、銅やパルプ等の共積みも考えながら、バルク船の配船を検討していくことになりそうです。今年の最終配船は11月配船(5番船)となり、日本入港は2025年1月以降を予定しており、配船スケジュールに変更はありません。

B) 梱包市況

梱包需要は例年6月梅雨シーズンの動きは静かですが、今年は更に需要が落ち込んだ地域も多く、連休で稼働日が少なかった5月よりも動かない地域もありました。

7月前半は為替が160円を超える円安ドル高局面の市況で、輸入材の値上げ方針もあり、国産材へシフトする動きが進みました。

しかし、日銀の為替介入、米国の景気後退による利下げ予測、日銀の利上げ予測、米国次期大統領にトランプ氏が有利等、ドル売り円買い材料が多くなり、相場は反転して為替は150円前半の水準までドルが下落しております。

製材価格は2-3番船のコスト高をカバーする為に全国で3000円の値上げを8月から9月にかけて浸透していく方針です。

今後更に円高ドル安の為替水準が進めば、3000円の値上げが浸透後は市場の反応を見ることになりそうです。

国産材との競合も今後の為替水準によっては、輸入材から国産材への流出減少、国産材から輸入材への一部戻りは期待できるかもしれません。

c) アラウコ乾燥材(KD)

アラウコは5月末に閉鎖したエルコロラド工場と6月に発生したコロネル港の港湾ストライキの影響で、まだ生産と出荷のバランスが通常に戻っていません。

日本向け厚板KD材も生産枠の確保が出来ない状況が継続しております。

チリラジアータパイン材からアルゼンチンタエダパイン材へ移行するユーザーも世界で継続はしておりますが、日本向けタエダパイン材の販売数量は、仕組み材が生産出来ない為に伸び悩んでおります。

サイズによっては長物で生産枠を確保出来る生産体制になってきました。

アラウコアルゼンチンは、クロスカットラインを新設することが正式に決まり、2025年早い時期に日本向けを含めて世界市場へ販売を開始する計画です。

以上